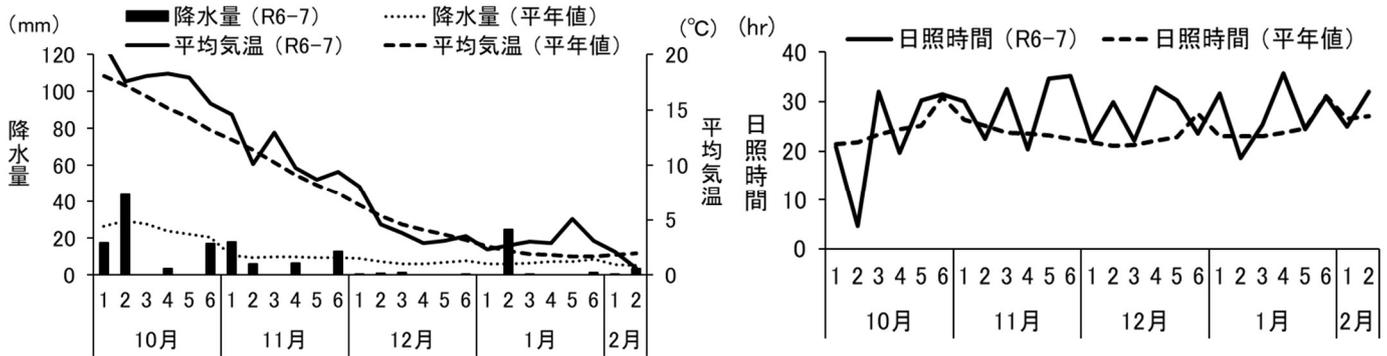




今後の栽培管理のポイント

- (1)排水状況の確認 (2)麦踏み (3)追肥 (4)雑草防除

1 気象経過 (10月第1半旬～2月第2半旬, 仙台アメダス)



- ・気 温：平年より高い傾向で推移しましたが、12月中旬は平年より低い日が続きました。特に10月中旬から11月上旬、1月上旬から下旬の気温は平年より高くなりました。
- ・降 水 量：1月第2半旬にまとまった降雨がありましたが、それ以外の期間は平年より少ない傾向で推移しました。
- ・日照時間：平年より多い傾向で推移しましたが、1月第2半旬は平年より少なくなりました。

2 大麦生育調査結果 (令和7年2月10日現在)

表1 生育調査ほにおける生育調査結果 (令和7年2月10日調査)

品種	ほ場	条間(cm)	播種日	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			幼穂長(mm)		
				本年	平年比(%)	前年比(%)	本年	平年比(%)	前年比(%)	本年	平年差	前年差
ホワイトファイバー	仙台市宮城野区	25.3	10月14日	11.7	108.0	99.2	466.4	53.0	56.3	1.9	+0.3	+0.1
	大和町落合報恩寺	28.9	11月13日	8.5	83.7	82.5	173.0	15.9	10.7	0.4	-0.95	-0.8
シュンライ	仙台市宮城野区	26.4	10月14日	13.4	126.8	132.7	541.7	60.9	95.7	1.0	-0.4	-0.4
	大和町落合三ヶ内	29.0	10月25日	11.1	-	-	470.7	-	-	1.3	-	-

※平年値は3か年平均です。大和町ホワイトファイバーは令和5年産から調査しているため、平年値は2か年平均で算出しています。また、条間は計測していないため、大和町ホワイトファイバーの条間を参考に、条間29.0cmで仮に茎数を算出しています。

※大和町シュンライは令和7年2月10日から参考として調査しているため、前年値、平年値はありません。

・仙台市 (ホワイトファイバー、シュンライ)

草丈は、ホワイトファイバーが11.7cm(平年比108%)、シュンライが(平年比126.8%)で、平年より生育が進んでいます。茎数は、ホワイトファイバーが466.4本/cm²(平年比

53.0%)、シュンライが 541.7 本/cm² (平年比 60.9%) と平年より少なくなりました。また、ほ場の一部で、ハクチョウによる葉の食害が目立っていました。

幼穂長については、ホワイトファイバーが 1.9mm (平年差+0.3mm)、シュンライが 1.0mm (平年差-0.4mm) となっており、幼穂形成期に入っています。

・大和町 (ホワイトファイバー、シュンライ)

ホワイトファイバーの草丈、莖数ともに平年、前年よりも少なくなりました。ホワイトファイバーの幼穂長は 0.4mm (平年差-0.95mm) で、幼穂形成期には入っていません。シュンライの幼穂長は 1.3mm となっており、幼穂形成期に入っています。



仙台市シュンライ



仙台市ホワイトファイバー



大和町シュンライ



大和町ホワイトファイバー

3 今後の栽培管理

(1)排水状況の確認

融雪や降雨によるほ場の停滞水を速やかに排出することが重要です。

「暗きよの再点検 (閉じていないか)」「明きよの手直し」を行いましょう。

○湿害の影響

[出芽後期～分けつ期]→浅根、分けつの減少、葉の黄化、生育遅延

[節間伸長期～出穂期]→弱小分けつの枯死、穂数の減少、穂の縮小化



○排水環境の良い例
額縁明きよとほ場内明きよが排水路につながっている。



○手直しが必要な例
ほ場内明きよが排水路とつながっていないため滞水。

(2)麦踏み

麦踏みの時期は**莖立期前まで**となります。麦踏みの実施にあたっては、幼穂の長さを確認し、作業を実施できるか慎重に判断しましょう。

- ・効果：生育・穂揃いの均一化など
- ・**実施時期：莖立期前までに実施しましょう。**(幼穂長 2mm 頃から莖立ち)
- ・回数：年明け後 1～2 回（播種後から全 2～3 回）が基本です。

〔 ⚠ 下記の状態では逆効果なので、麦踏みは**実施しない**ようにしましょう。〕

- 鳥類の食害がある
- ほ場が湿っている

- ・「ホワイトファイバー」は「シュンライ」と比べてやや倒伏しやすいので、莖立ち前であれば麦踏みを実施しましょう。

(3)追肥

追肥の目的は、気象や土壌条件によって変動する生育を、目標収量及び品質に近づけることです。一般に大麦はたんぱく質含有率の高い子実は加工適正が劣りますが、小麦ではたんぱく質含有率が高い子実が求められます。

2月10日現在、幼穂形成期に達したほ場がある一方で、食害や葉の黄化が目立つほ場が散見されます。品質が高い麦を収穫するために、生育状況や生育ステージを確認して追肥を適期に実施しましょう。

【株直し追肥】（※小麦では行わない）

◇大麦

- ・追肥判断：播種時期が遅く生育量が少ない（年内の莖数が 500 本/m²以下）
葉の色が薄い、鳥類による食害が多い場合に実施します。
- ・追肥時期：融雪後
- ・施用量：窒素成分 1 kg/10a（硫安 5kg/10a）

【幼穂形成期の追肥】

- ・麦類は幼穂長が 2 mm を超える頃から莖立ちし、幼穂や節間の伸長が急激に進むため、この頃の窒素栄養状態の悪化は有効莖歩合の低下を招きます。

⇒穂数を確保するため、生育ステージを確認し、確実に追肥を行いましょう。

- ・追肥時期：幼穂長 2～3 mm の時期
- ・施用量：◇大麦→窒素成分 2.0～2.5kg/10a（硫安 10～12kg/10a）
◇小麦→窒素成分 2.5kg/10a（硫安 12kg/10a）

※幼穂形成期の追肥は、追肥量が多すぎると倒伏の発生を助長します。株直し追肥を行った場合は、追肥量を削減しましょう。

【減数分裂期・穂揃期の追肥】

- ・減数分裂期追肥は 1 穂粒数を増やし、穂揃期追肥は千粒重や子実たんぱく質含有率を高めます。そのため小麦では、品質を確保するための追肥として、減数分裂期と穂揃期の両方で追肥することが原則となっています。また、大麦では穂揃期に追肥すると品質が低下するため、追肥は減数分裂期までとします。

- ・施用時期、施用量については表2のとおりです。

表2 麦類の追肥量の目安

種別	品種	起生期（株直し）		幼穂形成期	減数分裂期	穂揃期
		起生期の葉の黄化状況	越冬後 茎葉が再び生長を始める時期	幼穂長が2~3mm	幼穂長が3~5cm 止め葉の葉耳間長が±0mm 出穂10~15日前	出穂した茎が80%
大麦	シュンライ	少ない	1	2~2.5	2~2.5	—
	ミノリムギ					
	ホワイトファイバー	目立つ	2			
小麦	シラネコムギ			2.5	2.5~5	2.5
	あおばの恋	—				
	夏黄金					

※追肥量：窒素成分量（kg/10a）

(4) 雑草防除

- ・今後、気温の上昇とともに雑草の発生が目立ってくるのが予想されます。雑草の発生状況に応じて適宜除草剤（茎葉処理剤）の散布を検討しましょう。

⚠ 雑草防除の際の注意点

- ・幼穂形成期及び茎立期（節間伸長期前）を過ぎると使用できる除草剤が少なくなるので、生育を確認して適期に使用しましょう。
- ・散布後、薬剤が乾かないうちに雨が降ると薬剤が流れ落ちて効果が下がるので、天候に注意して作業しましょう。
- ・薬剤の雑草が限られているため、優先雑草を把握し目的に合ったものを使用しましょう。

表3 麦類の使用可能な除草剤（令和7年2月12日現在）

薬剤	作物	適用雑草	10a当たり使用量 (散布流量)	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	備考
ハーモニーDF	小麦	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	5~10g (通常散布：50~100L 少量散布：25~50L)	は種後~節間伸長前	雑草茎葉散布 又は全面散布	1回	スズメノテッポウには、雑草5葉期までに散布。
		一年生広葉雑草	3~10g (通常散布：50~100L 少量散布：25~50L)	節間伸長開始期~穂ばらみ期 ただし収穫45日前まで			
	大麦	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	5~10g (通常散布：50~100L 少量散布：25~50L)	は種後~節間伸長前			
アクチノールB乳剤	麦類	一年生広葉雑草	100~200ml (70~100L)	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	雑草茎葉散布 または全面散布	2回以内	広葉雑草については、発生揃~6葉期（ヤエムグラは4葉期）までに散布。
MCPソーダ塩	麦類 (秋播)	一年生及び多年生 広葉雑草	200~300g (70~100L)	幼穂形成期 ただし収穫45日前まで	雑草茎葉散布 又は全面散布	1回	
エコパートフロアブル	小麦 (秋播)	一年生広葉雑草	50~100mL (100L)	小麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2~4葉期、 ヤエムグラ2~6節期) ただし収穫45日前まで	雑草茎葉散布 又は全面散布	2回以内	
	大麦	一年生広葉雑草		大麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2~4葉期) ただし収穫45日前まで			

※最新情報で農薬登録を確認のうえ使用してください。

※農薬使用の際に飛散防止対策を講じたくえ使用してください。

○1 か月予報（2月22日～3月21日 仙台管区气象台 令和7年2月20日発表）

向こう1か月(2月22日～3月21日)	寒気の影響を受けにくいいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。また、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。降水量、日照時間ともにほぼ平年並の見込みです。
1週目（2月22日～2月28日）	低気圧の影響を受けにくいいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並の確率50%です。
2週目（3月1日～3月7日）	低気圧の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、高い確率50%です。
3～4週目（3月8日～3月21日）	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。